
**CALL 教材を利用したチャンク単位での音読訓練が
読解速度と読解効率に与える効果**
**The Effect of Read-Aloud Training by Chunking
on Reading Speed and Efficiency in a CALL Software Environment**

神田 明延(首都大学東京)

湯舟 英一(東洋大学)

田淵龍二(ミント音声教育研究所)

池山和子(恵泉女子大学)

山口高嶺(早稲田大学)

鈴木政浩(西武文理大学)

KANDA, Akinobu(Tokyo Metropolitan University)

YUBUNE, Eiichi (Toyo University)

TABUCHI, Ryuji(Mint Sound Education Group)

IKEYAMA, Kazuko(Keisen Women's College)

YAMAGUCHI, Takane(Waseda University)

SUZUKI, Masahiro(Bunri University of Hospitality)

Keywords: チャンク, 読解効率, 音読, ソフトウェア, 提示方法

1. これまでの研究成果

本研究グループは数年に亘って、CALLソフトウェアによるチャンク提示法の工夫によって、速読訓練による読解効率の向上を検証し、英文がチャンク毎に現れる多様な提示法で有意な成績の伸びを確認し、諸提示法における特性なども確認してきた(神田他, 2007; 2009; 湯舟他, 2007; 2009)。では、なぜチャンクに区切られた英文が、速く読め、理解を促進し、記憶されやすいのか。チャンクは意味と統語の切れ目であるため、正しい意味理解を直接的に導くが、同時にチャンクは韻律の単位を形成し、その韻律情報も読解速度の向上に関係があるのではないかと考えられる。実際、門田(2005)は、「韻律構造仮説」prosodic configuration hypothesisの中で、我々は一つの韻律単位の音韻表象を貯蔵し、必要に応じて高速で反復する中で、音声インプットの圧縮現象が生じ、その結果リズム等の韻律情報が顕在化され意識されるのではないかと説明している。

発表者らは、この働きを実現する音声単位としてチャンクに着目し、チャンクを音読することによる読解スキルの効果についてCALL教材を用いて検証することにした。

2. 処遇実験の方法と経過

上記の結果を踏まえ、今回はチャンクを速読するだけでなく音読させることにより、学習者の英語音韻符号化の高速化と自動化が助長され、さらなる速読効果と読解効率の向上が認められるかどうか検証する。具体的には、これまで行ってきたチャンク読み(黙読)を行う統制群と同様のチャンク切り英文を音読する実験群クラスを配置し、1年に渡る教室処遇を経た効果測定を行い、同時に学生アンケートとして、CALLソフトウェアの利便性や英語音読授業に対する動機付

けの変化についても考察する。なお利用したソフトウェアはプレーヤーミント¹で、図 1 のように、チャンク毎に英文が下線とともにカーソルが動きながら表れていく提示方法を共通化した。そして、統制群である速読クラスでは、手動で図 1 のようなチャンクを移動して黙読する。その直後に

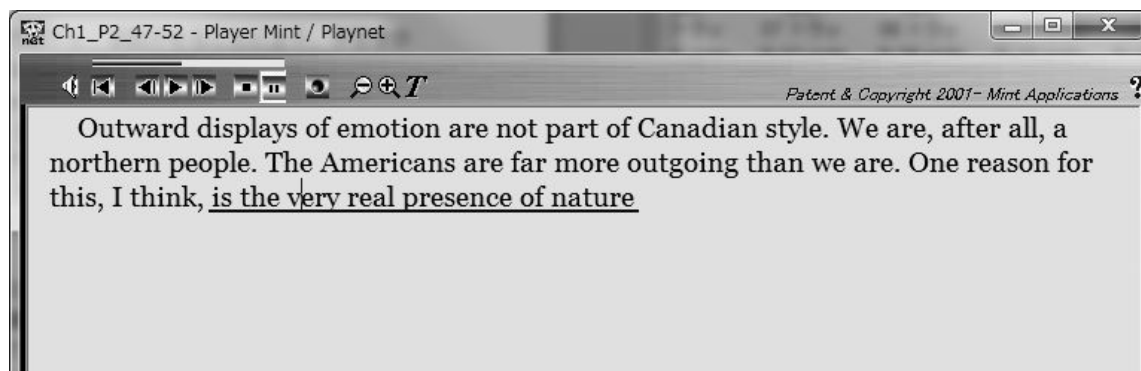


図 1

内容理解問題を Moodle のクイズで回答し、理解度のデータとして残し、読解効率算出に使う。他方、音読クラスでは、音声付きで同様の提示方法で、音読やリピーティング訓練を行う。両群とも毎週 5～10 分程度の処遇で教科書素材の一部を用いた。

さて、半期の途中経過としては、両クラスで有意な速読と読解効率向上の効果を見出せたが、聴解能力においては特に統計上有意な変化はなかった。さらには音読と速読の両クラスの有意差も見出せなかった。それは情意面のアンケートにおいてもそうであった。そのため、今期は以上の反省から、新たな共同研究者 2 名の加入により、処遇対象者数を拡大し、複数の大学における 1～2 年生の一般英語クラスで処遇を継続した。その最終的な成果を今回発表する。

注

¹ プレーヤーミント Play Academy 版、(株)ミントアプリケーションズ

参考文献

- 門田修平 (2005) 「Phonological Coding」『英語音声学辞典』成美堂。
- 神田明延、湯舟英一、田淵龍二 (2007) 「個別学習と連携したソフトウェアによる速読訓練」『外国語教育メディア学会 LET 第 47 回全国研究大会発表論文集』 pp32-33.
- 神田明延、湯舟英一、田淵龍二、鈴木政浩 (2009) 「ソフトウェアのチャンク提示法による速読訓練の効果」『第 49 回 LET 全国研究大会発表論文集』 pp.84-85.
- 湯舟英一、神田明延、田淵龍二 (2007). CALL 教材における英文チャンク提示法の違いが読解効率に与える効果. *Language Education & Technology*, 44, 215-229.
- 湯舟英一、神田明延、田淵龍二. (2009). CALL によるチャンク提示法を用いた英文速読訓練の学習効果、*Language Education & Technology*, 46, 247-262.